

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の  
配分金で発行されています。

昭和27年1月11日  
第三種郵便物認可第751号  
平成29年12月25日発行  
(毎月25日発行)

# 福祉だより 信州

No.  
751

2018 1月号



## CONTENTS

- 今月のフクシくん 2
- 県社協からのイチオシ情報 4
- 公益事業の推進に向けて 6
- WEB INFORMATION 7
- 住民主体の福祉活動 8

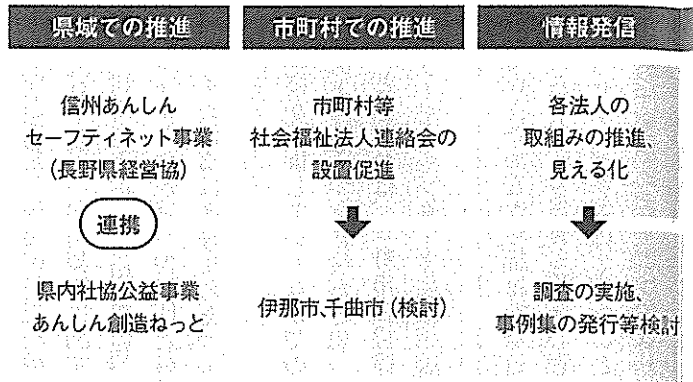


# 社会福祉法人の地域貢献を広げる

## 市町村域での協働の取組み事例から

全国各地で市町村域での社会福祉法人協働による地域貢献が広がっています。県内では「信州あんしんセーフティネット事業」（長野県社会福祉法人経営者協議会）、長野県あんしん

### 社会福祉法人の地域貢献活動の推進



創造ねっと（長野県内の加入市町村社会福祉協議会）の二つがスタートしていますが、今後、市町村ごとに身近な地域の課題に社会福祉法人が協力して解決を目指す取り組みの定着が課題となっています。そこで、全国の先進的な事例を特集します。

**1 社会福祉法人連絡会等を設立した他県の活動例**

島根県安来市では、福祉なんでも相談を起点に、生活困窮者等の就労に向けた社会参加・就労体験の受け入れなど制度の狭間のニーズに応える取り組みを実践しています。

福岡県うきは市、大牟田市、嘉麻市等では、社会福祉法人が連携し、買い物送迎ツアーやクリーン（清掃）大作戦、ゴミ屋敷の片付け支援などそれぞれの地域の事情を踏まえた取組みを行っています。

兵庫県神戸市の、垂水区社会福祉法人連絡協議会では災害復興住宅である「ベルテ名谷住宅」の地域課題を解決するためにアンケートや意見交換などを積極的に取り組んでいます。

## 2 東京都地域公益活動推進協議会の取組み

東京都では、地域共生社会の実現に向け東京都地域公益活動推進協議会を設置して各社会福祉法人・地域の連携による取組みを積極的に行っておりま。詳しくは協議会のホームページをご覧ください。今回は、その中の一つ、大田区地域連携公共事業を取材しました。詳細は次ページをご覧ください。

東京都地域公益活動推進協議会  
<https://www.tcsww.ac.or.jp/koueki/index.html>

### （参考）～県域での社会福祉法人の共同貢献事業貢献～

**長野県あんしん創造ねっと**  
 （長野県内の加入市町村社会福祉協議会）

加入 16 社協

実施内容

- 生活困窮者のための入居保証サービス
- ミルク等支援事業
- 生活困窮者のための（就職）身元保証
- 子どもの居場所づくり支援

平成29年10月スタート

問合せ先／社会福祉法人長野県社会福祉協議会 TEL 026-228-4244

**信州あんしんセーフティネット**  
 （長野県社会福祉法人経営者協議会）

実施内容

- ① 就職活動応援金付職場体験事業（プチバイト事業）
- ② 就職支度金給付事業

H28年度実績

- ① 支給件数 32 件／支給総額 411,600 円
- ② 支給件数 13 件／支給総額 118,168 円

問合せ先／長野県社会福祉法人 経営者協議会 TEL 026-224-7330



# 市区町村域で地域公益活動に取り組んでいる、 「おおたスマイルプロジェクト (東京大田区)」を取材させていただきました！！

## 実施のきっかけ

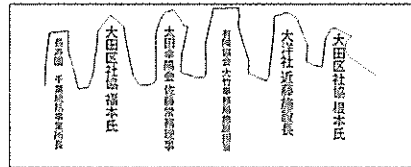
母子生活支援施設を経営する社会福祉法人大洋社が、施設サービスを通じて、「緊急的な対応ではなく、地域の予防的な視点が必要。生きる力を身につけられるような体験型の学習支援を行いたい」との思いを地元の社会福祉協議会に相談。社協のコーディネートのもと他分野の社会福祉法人の協力を得て、おおたスマイルプロジェクトがスタートしました。

## おおたスマイルプロジェクト

目的：一団体では解決が難しい地域の課題について、複数の団体または地域の方々と協力し合うことで、課題解決につなげていくことを目指す。

## ■ おおたスマイルプロジェクトの事業内容について

おおたスマイルプロジェクトは、平成27年10月に体験型の学習支援事業である「れいんぼう」をスタート。れいんぼうは右の図のように4つのプログラムで構成されています。一つ目の「学ぶ」は将来、自立して生活するために必要な「就労」につなげることを目標にしています。二つ目の「食べる」は1人で食事することが多い子どもなどに、生きていくうえで大切な「食」について、食事作りや、人と一緒に食べることの楽しさを体験をします。三つ目の「動く」は、運動を通じて健康の大切さや、園芸活動を通じて命の大切さを体感することを目標としています。四つ目の「体験」は、社会的接点や経験が少ない子どもについて、近隣の大学見学や職場体験を通じて、子どもたちが自分の将来に夢や目的を持って生活できることをめざします。これらのプログラムは月2回の課題別学習会・調理体験と月1回の体を動かす活動または体験プログラムを実施しています。

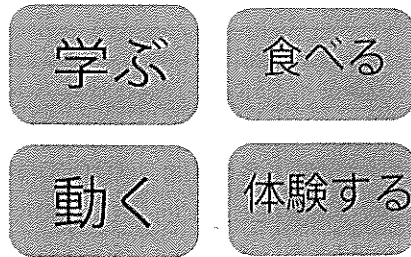


取材に応じていただいたプロジェクトメンバーの皆さん

## ■ 実際にやってみて地域にどんな反応があったか

「れいんぼう」の実施により親子の関係がよくなり家族の会話が増えたという声がありました。親が食事を作っていて、子どもが自分から進んで料理の手伝いをするようになり食にも興味を持つようになってくれたというエピソードや、ひとり親だとどうしても子供が一人で食事をするが多くなってしまいうなか、大勢で食事をする事で食べる量も増えたり、料理の好き嫌いがなくなったという声もききます。なによりひとり親の方の相談窓口にもなっており、地域の困った方とつながったという事が嬉しかったと担当者は話してくれました。

## おおたスマイルプロジェクト 「れいんぼう事業」コンセプト



## ■ 大田区社会福祉法人協議会との連携と 今後のおおたスマイルプロジェクトについて

大田区では、平成27年7月に「大田区社会福祉法人協議会」を発足しました。(現在35法人が加入)。平成28年度より、幹事法人を中心に作業部会を立ち上げ、福祉法人の育成に取り組んでいます。今後は、地域の狭門のニーズを共有し、その解決に向け、それぞれの強みを出し合いながら、スマイルプロジェクト第2弾、第3弾の展開を模索しています。

